



日本で(ふ)えたもの

マレーシアから日本に来て早くも9年が経ちました。この間、色々な変化がありました。まず、20代だった自分が30代になり、平均睡眠時間はほぼ倍になりました。昔は徹夜しても全く平気だったのに、近年(特に冬)睡魔に勝てなくなる傾向にあります。睡魔もそうですが、日本のコタツというものは本当に魅力的ですね。多くの日本人は冬になって体重が増え、夏になると体重が元に戻ると聞いています。私も冬に体重がかなり増えますが、常夏の国が母国なだけに夏に強いので体重はそのままです。したがって9年を経て、まさに「階段状勾配溶離」(Stepwise Gradient Elution)のように体重が増加しています。

「階段状勾配溶離」へと私を導いた原因の一つは、なんと言っても日本の食材です。以前は少しでも口にするとじんましんが出ていた牛肉、人間の食べ物とは思えないにおいを放つ納豆や海藻類、それが今では冷蔵庫に常備するほど。郷に入っては郷に従え。苦手なものは、とにかく調理法を変え、味を変え、練習したのです。それにしても、スーパーでは創作意欲をそそる食材が目飛び込んできて困ります。ある恩師いわく「化学者は料理上手だ」と。上手かどうかはさておき、研究者としては料理もとことん追究せざるを得ません。ついこの間まではまっていたのは「卵焼き」です。読者は卵焼きにどんなこだわりをお持ちでしょうか。砂糖を入れる? マヨネーズは欠かせない? そんなのとんでもない! 実験の結果、私がオススメするベストエッグは、がんもどきエッグです。私が苦手なひじきを少々加えるのがポイント。ぜひお試しあれ。何事も好き嫌いや既成概念にとらわれず、探究心を持って楽しみたいですね。ただし、楽しみすぎると「階段状…」なんてこともあるので、ほどほどにです。

さて、私は私費留学生として来日しました。私費留学生としての生活はアルバイトであるとも言えます。物価が格段に高いこの日本では、アルバイトなしでの生活は無理でした。幸い1年目には大学の付属施設である留学生寮に入ることができたので、住居費の心配が減り、平日は勉学に専念、土日はアルバイトと忙しく充実した日々を送りました。両立は大変でしたが、アルバイトをして得た知識は決して大学の講義だけで手に入れることはできません。ちなみに、当時のアルバイトはバッティングセンターでの受付でした。バッティング機械の修理も習得したので、今でもバネの交換や軽い故障の修理位はまだできると思います。

ところで、来日前の私は、日本では(少なくとも大学

では)英語が通じると思い込んでいたので、日本語の勉強をほとんどしていませんでした。これが災いし、最初の頃あまり日本人学生たちは話しかけてくれませんでした。日本人というのは随分大人しいんだなと思っていましたが、実は英語アレルギー(?!)のなせるわざだということが判明しました(笑)。これでは辛いので、毎日8時間ぐらい日本語を勉強しました。おかげで、皆さんと話せるようになり、留学生生活が随分と楽しくなってきたものです。平成12年11月に東京で開催された国際舞踊フェスティバルでは、浴衣を着て、岐阜大学の留学生達と2か月間にわたって練習してきた郡上踊りを披露して、日本の文化に触れる良い機会も得られました。

私にとって最も大きな変化は、留学生から教育者になったことです。運よく5年前に、修士課程からの恩師である竹内豊英先生(現所属研究室の教授)に助手として拾っていただきました。外国人の私が日本の大学で助手になるのは不安がありましたが、竹内先生の「日本人ばかりですと、面白くないですよ」の一言が私の背中を押してくれました。次のようなエピソードがあります。教職員になったばかりの頃、教室会議で急に議事録をとらなければならなくなりました。当時はまだ応用精密化学科(今は応用化学科と機能材料工学科に分かれています)でしたので、教員数も多く、議題もたくさんありました。自分が必死にメモをとる中、ふと隣を見ると、そこには私以上に必死な様子でメモをとる竹内先生の姿がありました。私では議事録がとれないだろうと心配されていたことでした。あれから数年経ち、議事録くらいはなんとかとれるようになりましたが、今でもあの時の先生の姿を思い出すと、有難い気持ちで胸がいっぱいになります。いまだに頼りない助教(全然教授を助けられていませんが)ですが、竹内先生はいつもいろいろ丁寧に教えてくださり、対応してくださっています。

今年の8月11~13日、第10回Asianalysisがマレーシアの首都、クアラルンプールで開催されることになっています。この7年間、私を研究者に育ててくれた日本分析化学会に感謝し、会員として胸をはって演壇に立てるよう努力致します。

今回は、ほぼ同時期に来日し、以降同じく分析を専門とする留学生仲間として大学は違うものの7年間親しくさせていただいている朱彦北さん(現・独立行政法人産業技術総合研究所)をお願いしてあります。朱さん、期待していますよ♪

〔岐阜大学工学部 リム リーワ〕